の社會なり」と云つて居りますが、これは名言と思ひます。どうぞ、皆さんは此樂しいお仲間の一人になつて、子供を扱ふて下さるやうにくりかへし御願ひいたします。

溺れるものを救ふには、自ら水中に飛び込まなくては、その効を奏する事は出來ないのであります。

* * * * *

人類の子供時代は何故長いか

文學士　上野陽一

一

原生動物のやうに、極簡單な動物になると、人間などに比べて見て、餘程趣きが違ふ。生れるといつても、母細胞が分割して二つになると、その二つが各獨立した生物になるに過ぎない。併し生物として存在して居る間に、少しも進歩とか發達とかいふ現象を見ることが出來ない。稍發達して簡單なる神經系統を有するものでも、生れるとすぐに、自分のことだけは自分で世話をして、死に至るまで大した發達をしない。生れると同時に、種々の能力を具へて居るのであるから、始めから大人――動物に對して大人といふのも可笑しいが――として生れるのである。隨つて子供といふ時代がない。先祖のやつて來たことを、反射的自動的にやつて行けるやうに、ちやんと神經系統の方に準備が出來て居るのである。

併し今迄になかつた新しい境遇に順應して行くには、祖先の遺傳だけでは足りない。そこで個體の進歩といふことが必要になつて來る。今迄は祖先の遺傳を保存して行くための神經系統であつた

が、今度は新しい境遇に對して順應を營むための中樞が必要になつて來る。勿論この生後の發達といふことも、極めて徐々たるもので、鳥類位になつても、大部分は遺傳に基づいて行動して居るのである。新しい事件に對して、一々相當の裁量を與へて行かなければならぬ大會社の重役などの仕事に比べて見ると、鳥類の生活などは極めて簡單なものである。人間の胎兒としての生活は、約十月であるが、かやうな短日月に於ては、到底複雜なる行動をするだけの用意は出來るものでない。こそで下等動物は生れると直ぐに親のなし得ることはすべてなし得るに反して、人間に於てはその中の幾分を繼承するのみで、その他は生後の經驗を俟つて次第々々に成熟して來るのである。この時期が謂はゆる「子供」と稱する時期である。

二

動物が進化するに從つて、身體の構造は複雜になり、之に平行して精神作用も複雜になつて行くが、今一つ面白いことは、動物が進化して心身が複雜になるにつれて、謂はゆる子供の時代が次第に長くなつて來て居るといふことである。雞の雛の如き、生れてから當分は親鳥の保護を必要とするとはいふものゝ、生活に必要なる行動は、大部分は既に誕生當時に出來上つて居る。犬の子でも猫の子でも、生後當分は隨分他の保護を必要とするが、それかといつて、その後經驗によりて新たに覺える事柄は極僅である。人間以外で子供時代の一番長いのは恐らく類人猿であらう。オランングの如きは、一個月位獨りで起つことが出來ない。色々のものに握(つか)まりながら、立つことの御稽古をする樣は丁度人間の子供そのまゝである。アフリカや、印度アーキペラゴに居る尾なし猿の如きは、生後二三個月間は、歩るくことも出來ず、自分で物を食べることも、精密に物を握ることも出來ないとのことである。然るに普通の猿は二三ヶ月も經てば、歩るくことも掴むことも、十分に出來る、

卽ちそれだけ子供時代が短いのである。

然るに人間になると、子供時代が非常に長くなり多年之を愛撫哺育してやらないと、獨立の生活が營めない有樣である。而して如何にその取扱が深切丁寧を極めても、人類の三分の一は五歲に達する前に死滅しつゝあることは統計の明らかに示す所ではないか。子供時代といふ意味を他の保護を要する時代と解すれば、人間の子供時代は十二三歲までゝおらう。蓋し十二三歲になれば、無理に獨立の生活が出來ないこともないからである。併し可型性、可敎性のある時代を子供時代と解すれば、靑年期までも子供時代に數へなければならぬ。

然らばこの子供時代なるものは、心理學上如何なる意義を有するものであるか。これはつまり獨立の生活をなすために必用なる準備をなす時代である。故にその個人の生活すべき社會が複雜であればある程、それに順應して行くには、長い準備を要する譯である。そこで人間の子供時代は、動物のよりも長く、同じ人間の中でも、未開人よりも文明人の方が長い。文明人の社會でも中流以上の子弟になると、生後二十五年も經過しても、まだ父兄から學資を貰つて、この準備のために時間と勞力とを費さなければならぬ有樣である。生理的に春情の發動は既に十四五歲頃に始まつて居るのに、その約二倍の年月を經なければ獨立生活の準備を終ることが出來ない。それが現今文明社會の常態である。幼稚園から大學を出るまでには、どうしても二十五歲から三十歲にはなるが、心理上からいへば、皆子供時代と見做すべきものである。卽ち子供時代は從屬の時代準備の時代と稱することが出來る。

三

人間に子供時代があるために、文明はどの位進歩したかも知れないし、又逆に文明が進むに從つて人間の子供時代は非常に長くなりつゝある。今

その次第を説明しよう。

社會學者の説明によるに、すべて政治上社會上の制度は、主として家族から發達して來たものである。然らば家族なるものは如何にして出來たかといふに、人間の嬰兒は誠に賴りないものであるから、之を保護して育てるために兩親が一處に生活するといふことから始まつたのである。して見ると、社會の文明は、人間に子供時代といふものがあつて、それが次第に長くなつた御蔭で次第に進歩するに至つたといつても差支へがない。即ち人間の嬰兒が賴りない狀態にあるために、兩親兄弟の間には、同情の念が發達し、之れが結帶となりて長く共棲するやうになつたのである。家族が出來ると、進んで共同團體が出來た。道德史を飜いて、道德の發生退歩を考へると、道德は共同團體の進歩と平行して發達して居ることが明らかである。道德の始端と認むべきものはまづ社會的動物に見ることが出來るが、それから人間の部族生活を經て、次第に愛他的の共同團體まで發展して來たのである。

かくの如く考へて來ると、子供は文明の中核である。「子供は夫婦のかすがひ」といふが、實は文明のかすがひである。不和・離婚・別居などが子供のない家庭に一番多いといふことは、統計の示す所である。又子供のない人は、子供のある人に比べて見て、種々の同情に缺けて居ることは人々の氣づく所であらう。殊に一人子として富裕に育てられて來た人には、この缺點が著しいやうである。故に子供時代に於ける教育の如何は、その個人の盛衰と關係があるばかりでなく、社會全體の興亡と直接關係を有することである。かくの如くして子供時代の長いといふことによつて次第に文明が發達して來る一方には、文明の進歩が原因となつて我々の子供時代は次第に長くなりつゝある。蓋し社會の進歩は境遇が複雜となることを意味するのであるから、その境遇に順應するための準備をなす

子供時代が次第に長くなるといふのは、自然の勢である。社會の發達と共に、義務教育の延長されて行くのも、全くこの理由に外ならないのである。近世文明社會の一員として、十分之に順應して行くためには、長い間各方面から種々の教育を受けなくてはならぬやうになつて來て居る。殊に頭腦を使用する仕事を以て世に立たんとする人は、長い〳〵子供時代を經過しなければならぬ。人生五十といふが、文明の進歩はその半以上を子供時代として過ごさなければならぬやうな形勢を齎らして來た。種々の社會問題は多くこゝから起つて來る。

學齡前兒童の發達と教養（二）

文學士　入澤宗壽

三、模倣及び社會化の時期

（二歳の始より三歳の終りまで）

此の時期の狀態と一般的特色。兒童は今や各種の感覺と周圍の事物とに馴れて、玆に周圍のものの中でもつと變化の多い事物特に人間から新しい經驗を得やうとするに至る。外界の事物は多く靜止して居るから、早くその特質を了解するが、人間は活動して居り、變化があり、且事物のやうに兒童の思ふまゝにならないから、絶えず興味を起させ、且興味を段々と增して來させる。

第一期よりも大に複雜な模倣が起り又それが正確になされるのは此の第二期の特色である。聲の調子や、笑ひ、叫び其他顏面の表情が模倣せられる。これは一年半位の女兒に於て最も著く行はれる。此の模倣本能が遊戯及び好奇心の本能と聯合して此の二年間に兒童は人間として意識を持てる